

2 ふじいでらの村相撲(2) 「今に残る藤井寺の村相撲のなごり」

1)お墓に見られるなごり

藤井寺市内の墓地に村相撲で活躍した力士と思われるお墓が残っています。「藤井寺市史」(平成 14 年 1 月)によると文化年間から昭和 20 年代(1810~1950)に及ぶお墓が 22 基現存しているとのこと。また、所在が不明な墓石や失われたものを考えるとかなりの力士のお墓があったのではと思われます。「藤井寺の河内十三組」を調べるにあたって、市内の力士のお墓を探してみました。

力士のお墓は、多くの場合基礎部に「門弟中」と書かれています。「門弟中」とは弟子仲間・同じ相撲部屋の仲間と言う意味です。「門弟中」を頼りに主な墓地(沢田、小山、大井、藤井寺等)を調べたところ、12基のお墓が確認できました。



基礎部に門弟中と刻まれた
小勇の墓
(沢田墓地)



笠付の大きな石塔
明治以前のかかなり
古いお墓です
寿名 濱松 禎七
享和元年(1801
年)(小山墓地)
藤井寺市残存の
力士の最古のお
墓かも？



43人の力士を率
いていた頭取の若緑
平吉の墓
(沢田墓
地)
お花が供
えてありま
した



頭取若緑
平吉の基
礎部の左
面に相撲
取り
13 名の名
前が連記
されてい
ました

資料に載っていた力士のお墓がかなり壊されたりして少なくなっていました。大相撲の力士になったと言われている比較的新しい谷風(小山墓地)や河内地方で最古と言われる墓石の基礎上面四方に俵が丸彫りされているという「俗名井筒平八」(藤井寺共同墓地)の墓は確認できなかったのが心残りです。子孫の方が引っこしなどで所在不明だったりしてお墓の世話をする人がいないということ、また聞き取りをするなかで、地域の長老も数少なくなり、ますます昔のことが解らない世代になっているということを実感しました。

現在相撲取りのお墓が少なくなっているのは残念ですが、墓地のなかでは堂々たる風格で存在感を示しているのは確かなことです。このような立派な力士の墓が残っている背景には、

葛井寺や道明寺天満宮で行われていた勧進相撲の伝統から当時の力士の社会的な地位・階級が確立され多くの弟子を持つ者がいたことを物語っています。

2) 小山産土神社に残るなごり

【番付表】

小山産土神社の拝殿の天井に奉納された番付表が掲げてある。



天井の番付札 頭取、大関・関脇・前頭・行司がはっきりと読み取ることができる

【奉納絵馬】文政3年(1830)



奉納者の丹北中町の
藤井庄吉は草相撲の
横綱でもあるのであ
ろうか？
御宝前(神仏の御前、
賽銭箱のあるところ)
に勝ち名乗(なをり)を祈
願したのであろう。
〔「藤井寺市文化財」
第9号、藤井寺市教
育委員会、昭和63年
3月〕

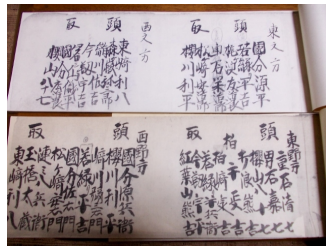
3) 松井家の記録に残るなごり

明治初期の沢田村の頭取であった若緑平吉のいた松井家には力士の記録が残されている。

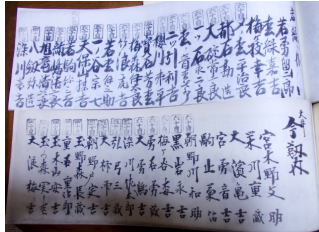
①



②



③



①明治4年(1871年)と明治7年(1874年)の「頭取中」の記録の表紙

「頭取中」とは頭取の配下力士の等級を書き記したもの

②東方(東野)、西方(西野)の頭取名

③若緑内(沢田村)、今靱内(大井村)の力士名と等級、最上位は等級は記されていないが、それ以外のものは六十目、五十目、四十目…の印が力士名の上に押されている

(若緑平吉頭取の曾孫に当たる松井清信様(沢田)にご協力いただきました。ありがとうございます)
(芳尾)